

GRANPOWER5000 モデル680/780(99年4月発表モデル)使用上の注意

取扱説明書の記述への追記・訂正事項

このたびは、弊社の GRANPOWER5000 モデル 680/780(99年4月発表モデル)をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本サーバのご使用時には下記の点に注意してご使用ください。また、本サーバに添付の『GRANPOWER5000 モデル 680/780(99年4月発表モデル) 取扱説明書』などのマニュアル類に記述の追記・訂正がございましたので、ここに謹んでおわび申し上げるとともに、下記のとおり追記または訂正させていただきます。

平成 11 年 5 月
富士通株式会社

1. LDSM6.0 管理コンソール (Intel Server Control ウィンドウについて)

Windows NT Version 4.0 に Service Pack4 を適用した環境において、LDSM 管理コンソールウィンドウ内の『スナップイン』ツリーより、Intel Server Control ウィンドウ(以下 ISC ウィンドウと呼びます)を起動できません。Windows NT Version 4.0 Service Pack 3 または Windows 95 環境でのご使用をお願いいたします。

Windows NT Version 4.0 Service Pack 4 を適用した環境において運用になる場合には、下記の操作をコマンドプロンプト上より実行していただけますようお願いいたします。この際、アラート通報機能として、サーバ上のイベントログ(初期設定値)、メッセージポップアップ、サーバ本体の液晶画面への通知、ブロードキャスト、ビーブ音が可能です。AMS (アラート管理システム) による通報機能はご使用できません。

[Windows NT Service Pack 4 環境での Intel Server Control ウィンドウの起動方法について]

[ISC ウィンドウ起動手順]

1. コマンドプロンプトの起動
2. cd "%ISCPATH%\%MI" ...インストール先へ移動
3. ISC.EXE /rpc:dce /net:TCPIP /addr:[IP アドレス] /name:[コンピュータ名]
...ISC の起動
 - ・ [IP アドレス] には、サーバの IP アドレス (123.123.123.123 など) を入力します。
管理対象サーバの IP アドレスは、LDSM 管理コンソール上で確認できます。LDSM 管理コンソールの起動後サーバ名を選択し、「プロパティ」タブの「検出アドレス」に表示されます。
 - ・ [コンピュータ名] には、サーバのコンピュータ名を入力します。

[バッチファイルでの運用 - 例]

下記のようなバッチファイル ISCStart.bat を作成し、ISC ウィンドウの起動時に使用します。

```
echo off
if "%1" == "" goto help
if "%2" == "" goto help
%SystemDrive%
cd "%ISCPATH%\%MI"
ISC.EXE /rpc:dce /net:TCPIP /addr:%2 /name:%1
goto exit
:help
echo [usage]:ISCStart コンピュータ名 IP アドレス
:exit
```

ISC.exe の格納先初期値は、%SystemDrive%\Program Files\Intel\ISC\%MI です。

2. LDSM6.0 と PowerChute® plus for WindowsNT ver5.1.1J との同時運用について

LDSM6.0 と PowerChute plus for WindowsNT ver5.1.1J (以下、PowerChute 5.1.1J と呼びます) を同時に運用される場合、以下の点について留意願います。

- 1) PowerChute 5.1.1Jのインストールは、LDSM6.0のインストール以前に実施してください。
- 2) PowerChute 5.1.1JのインストールをLDSM6.0のインストール後に実施する場合には、PowerChute 5.1.1Jのインストール後に、下記の操作を実施し、LDSM6.0の管理データを再構築してください。実行後、システムを再起動してください。

-
1. 下記の格納先にあるPowerChute 5.1.1Jのデータファイルを削除してください。
格納先：%WIN32DMIPATH%\MIFS\BACKUP\PMRCHUTE.MIF
 2. データ再構築のバッチファイルRECOVMIF.batを実行してください。バッチファイルRECOVMIF.bat は、LDSM6.0製品CD内 \RECOVERY\Mifディレクトリ内にあります。
 - 1) NT 上でコマンドプロンプトを起動
 - 2) コマンドプロンプト上で、CD-ROM のドライブへ移動してください。
(例) CD-ROM ドライブが F: の場合は、F: と入力してください。
 - 3) cd \Recovery\MIF と入力してください。
 - 4) RECOVMIF.bat と入力してください。
 - 5) [画面表示にしたがって操作してください。](#)
 - 6) システムを再起動してください。
-

3. メッセージ表示について

ハードウェア構成変更を実施した直後の電源投入後、稀に下記のメッセージが画面表示されることがありますが、運用上まったく問題はありませんので、そのまま動作を継続してください。

メッセージ内容 “PCI SYSTEM ERROR Bus/Device/Function 0148H”

4. 取扱説明書の記述への追記・訂正について

訂正

	訂正ページ、箇所	訂正前	訂正後
P.67	4.2 ハードウェアの設定 ジャンパピン/設定	C(5-6) D(7-8) E(9-10) ショート オープン オープン CPU 500MHz時	C(5-6) D(7-8) E(9-10) オープン ショート ショート CPU 500MHz時